



平成23年7月18日

国際化学オリンピック参加生徒の成績について

文部科学省では、(独)科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しておりますが、このたび、トルコ(アンカラ)で開催された「第43回国際化学オリンピック」に参加した生徒が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

(共同発表:「夢・化学-21」委員会、公益社団法人日本化学会)

1. 受賞状況 : 金メダル1名、銀メダル3名

2. 参加者 : 4名の高校生

3. 受賞者詳細 :

浦谷 浩輝 <small>うらたに ひろき</small> ※さん	滋賀県立膳所高等学校 (滋賀県)	3年 (17歳)	銀メダル
栗原 沙織 <small>くりはら さおり</small> さん	北海道札幌西高等学校 (北海道)	3年 (18歳)	銀メダル
齊藤 颯 <small>さいとう はやて</small> ※さん	灘高等学校 (兵庫県)	3年 (18歳)	銀メダル
副島 智大 <small>そえじま ともひろ</small> さん	立教池袋高等学校 (東京都)	2年 (16歳)	金メダル

(氏名の50音順にて掲載)

(年齢は本大会終了時点のもの)

※ 浦谷さんは2010年に銀メダルを獲得。齊藤さんは2010年に金メダルを獲得。

4. 参加国数/人数 : 70ヶ国・地域 / 273名

5. 場所 / 期間 : トルコ(アンカラ) / 平成23年7月9日(土)~18日(月)

6. 派遣機関 : 「夢・化学-21」委員会、公益社団法人日本化学会

(お問い合わせ)

文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 竹下、根橋、箕輪

電話 : 03-6734-4191 (直通) / 03-5253-4111 (内線 4192, 4193, 3890)

公益社団法人日本化学会 大倉、遠藤

電話 : 03-3292-6164

◆大会概括

- 国際化学オリンピックは1968年に東欧3ヶ国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）にて第1回大会が開催された。
 ○2011年のトルコ大会は、第43回目。
 ○日本は、2003年から参加を開始し、毎年4名の生徒を派遣。本年は9回目の参加。
 ○昨年（2010年）の日本大会は、68ヶ国・地域、267名の生徒が参加し、日本の成績は金メダル2名、銀メダル2名であった。
 ○本年（2011年）は、70ヶ国・地域から273名の生徒が参加し、日本は金メダル1名、銀メダル3名と全員がメダルを獲得した。

◆日本代表団の日程

7月 9日（土）	参加手続き
10日（日）	開会式
11日（月）	エクスカージョン
12日（火）	実験問題試験
13日（水）	エクスカージョン
14日（木）	理論問題試験
15日（金）・16日（土）	エクスカージョン
17日（日）	閉会式
18日（月）	選手団解散

◆参加生徒とその居住地

				居住地
うらたに ひろき 浦谷 浩輝さん	滋賀県立膳所高等学校（滋賀県）	3年（17歳）		滋賀県 銀メダル
くりはら さおり 栗原 沙織さん	北海道札幌西高等学校（北海道）	3年（18歳）		北海道 銀メダル
さいとう はやて 齊藤 颯さん	灘高等学校（兵庫県）	3年（18歳）		京都府 銀メダル
そえじま ともひろ 副島 智大さん	立教池袋高等学校（東京都）	2年（16歳）		東京都 金メダル

（「居住地」は保護者宅の所在地）

◆国際化学オリンピックにおける過去3年間の日本代表の成績

2008年（第40回 ハンガリー・ブダペスト大会）

銅メダル4名（参加規模：66ヶ国・地域、257人）

2009年（第41回 イギリス・ケンブリッジ大会）

金メダル2名、銀メダル1名、銅メダル1名（参加規模：64ヶ国・地域、250人）

2010年（第42回 日本・東京大会）

金メダル2名、銀メダル2名（参加規模：68ヶ国・地域、267人）

◆国際化学オリンピック（IChO=International Chemistry Olympiad）について

1968年に東欧3ヶ国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会である。参加資格があるのは高校生または高校と同等の学校（ただし高校相当の学年）に在学する20歳未満の生徒となる。

大会は世界の高校生が一堂に会し、化学の実力を競うと同時に交流を深めることを目的としている。毎年7月に10日間の日程で開催され、生徒らはそれぞれ5時間の実験問題と理論問題に挑戦する。成績優秀者には金メダル（参加者の約1割）、銀メダル（同約2割）、銅メダル（同約3割）が授与される。

日本は2003年のアテネ大会より参加している。

◆全国高校化学グランプリについて

「高校化学グランプリ」は、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として、「夢・化学-21」委員会と日本化学会化学教育協議会が1998年、東京と仙台の2ヶ所で試験的に実施したのが始まりである。翌1999年から、「全国高校化学グランプリ」として全国規模で開催されるようになり、今日では参加者が3,000人を超す大会に発展している。本大会の高校2年生以下の成績優秀者約20名が国際化学オリンピックに出場する日本代表の一次候補生として推薦されている。

◆参考資料に関するお問い合わせ先

公益社団法人日本化学会／大倉、遠藤

TEL 03-3292-6164／FAX 03-3292-6318

一般社団法人日本化学工業協会内／井上（「夢・化学-21」委員会）

TEL 03-3297-2555／FAX 03-3297-2615

○ ホームページ <http://icho.csj.jp/>

<http://www.kagaku21.net/>